

# 「小住宅こそオンライン見学会」part 1

—企画から事前収録と編集まで—



アーバントリップ  
実行委員会  
中村雅子  
(本企画コーディネーター)

2020年度、アーバントリップ実行委員会では従来集ったバスツアーや徒歩見学会が実施できず、やきもきしてました。その中、今までご要望が多かった「小住宅の名作」「清家清 自邸=私の家」の見学会をオンラインで開催することができました。

コロナ禍の中、慣れない対策を取りながら実施した経緯を2回に分けてお話しします。

**Phase 1: はじめ** 八木幸二・ゆり(清家清氏ご長女) 夫妻から、リモート見学会にご協力いただける旨、承諾を得て動きだしました。

**Phase 2: 企画** 実施の約2カ月前に八木夫妻に実際の「私の家」をご案内していただき、資料の提供と質問やエピソードなどをうかがいました。事前に大まかな構成を考えておき、この下見でのヒアリングを加味して見学会のシナリオを作成することが、事前の撮影と実際の配信に向けて非常に大切なことでした。事前撮影ではこのシナリオに沿って撮影し、補足写真などの画像も入れた動画を元編集し、それを委員で進行に合わせながら再編集するという順序で進めました。(大川直治)

**Phase 3: 事前収録** 狭い路地のような小径を抜けると異空間「私の家」がありました。八木夫妻に案内してもらいながら自由に語っていただき、一気に撮ることにしました。違いのわかる女性、八木ゆりさんの勢いのあるトークと、控えめに、しかしさりげなくプロの目線で補うご主人の幸二さんの絶妙なコンビネーションのおかげで、2時間あまりの撮影はスムーズに終わりました。これを編集で1時間にまとめるわけですが、この長さは、私がNHK報道局時代に撮ったNHKスペシャル並みです。(浜谷修三)

**Phase 4: 事前録画の編集** 収録した2時間の動画を半分の1時間に短縮する編集作業は、アーバントリップ委員総出でhamaproに、無理をお願いしながら実現しました。



「私の家」  
内部を見学



hamaproによる事前収録

**Phase 5: 本番の構成を考える** 配信の構成としては、当日の現地からのライブ映像と事前撮影動画を交互に配信することにより、八木ご夫妻との直接のやりとりを大切にしながら、「私の家」の臨場感を伝えることを意図しました。具体的には、事前撮影動画は20分程度の3部構成とし、合間合間に感想や質疑なども入れておく構成を取りました(NHKの「日曜美術館」のような構成)。事前編集では、元編集動画を1時間程度に短くするとともに、話の内容を補足する図面・写真・説明文を入れました。事前に資料をダウンロードしていただけるようにしましたが、動画を見ながら図面や写真を見られるようにしたことで、理解度が深まり、小規模な住宅で画角に納まり切らない範囲をカバーできたのではないかと思います。これは事前に撮影したからこそできることで、大変有効だと思います。(大川直治)

次号につづく▶

●執筆協力者



アーバントリップ委員  
大川直治  
(企画協力)



hamapro  
浜谷修三  
(映像撮影&編集)



新国際通信社  
神村正晴  
(協力)



アーバントリップ委員  
南 知之  
(ライブ配信: Zoom  
画面管理)

オンラインセミナー開催概要

第92回 JIA アーバントリップ 「私の家」から清家清を探る  
2020年10月22日(木) 17:00~19:00 CPD:2単位  
主 催: JIA 関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会  
協 賛: 旭ビルウォール株式会社、株式会社イケガミ、三協立山株式会社、株式会社ユニオン、株式会社LIXIL  
案内者: 八木ゆり(清家清氏 長女)、八木幸二(建築家・養蜂家・東京工業大学名誉教授・京都女子大学名誉教授)  
オンライン: Zoom ミーティング(参加者100名)  
アンケート: Google フォーム  
オンライン会場: 「清家清・私の家」無線インターネットサーバーレンタル配信

## 「小住宅こそオンライン見学会」part 2

一本番から、その後の動画編集

JIA YouTube へのアップロードまで



アーバントリップ  
実行委員会  
中村雅子  
(本企画コーディネーター)

前回に続き、今号ではZoomオンラインの本番から動画編集 YouTube アップロードまでをご紹介します。

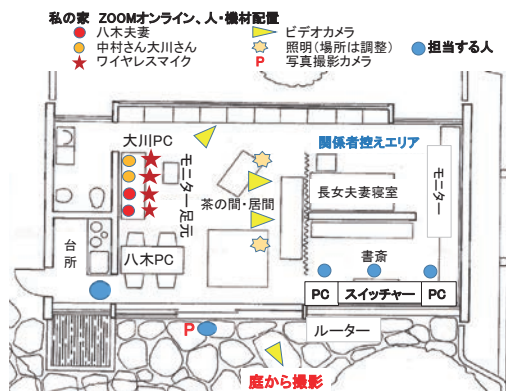
### Phase 6：本番および、その後の動画配信

**生中継** 生中継はプロデューサーとして衛星中継を何度か経験しましたが、機材と人、現場構築が絡むとコントロールが難しくなります。ですからできるだけ機材はシンプルに、人は少なく、そして全体をコントロールする体制が大事です。今回は4台のカメラを立体的に配置しましたが、私も含めてスタッフ2名と少ないので、映像の提供だけになりました。配信は、技術的に①有線回線、②カメラ割、③音処理、④スイッチング、⑤ズームコントローラーがポイントです。庭の巨木と「私の家」を1カットで押さえる庭にもカメラと照明をセットし、映像はワイヤレスで飛ばしました。上手くいったところ、失敗したことなどいろいろですが貴重な経験をさせていただきました。

ここ数年インドの聖地を旅して仏陀生誕地ルンビニで丹下健三設計の公園を撮りましたが、いまなお建設が続いているカオス的空間とは対極の家族のための空間、その書斎から望む風景は、違いのわかる建築家の心にわずかながら触れたような気がして余韻が残りました。(浜谷修三)

**通信** Zoomで現場から発信するのに、インターネット環境がないことが最も苦労心配しました。特殊な送信機をレンタルし、現場から専用の電波を飛ばし、人形町のスタジオで受信してインターネットに載せることにしました。

主催者PCとしては事前撮影の動画再生、Zoomコントロールが大変負荷がかかるので、Zoom用サーバーをレンタル。私はその横でカメラの切り替え作業にあたりました。図に示したようにたくさんの役割がありますが、委員全員で協力して実施できたことが大変よかったと思います。(神村正晴)



オンライン配信当日の役割分担



「私の家」にて 左から大川委員、八木ゆり様、八木幸二様、中村委員

**Zoom管理** 私が担当したのはZoom画面管理です。Zoomが世に出始めまだ十分に使われていない時期に、たまたまZoomホストを何度か行ったという個人的経験からの役割でしたが、100人の参加の管理+事前撮影映像+ライブ映像+スポンサーCMなど、切り替えるべき画面が多く、それに加えそれらの音声のミュートのON/OFF、キュー出しなど、慣れない中では大変なことで不手際も多く、参加された方にはご迷惑をおかけしました。懇親会も入れると合計約3時間Zoomに張り付いていたので、かなりの疲労感を覚えました。しかし後で多くの方から見学会への感謝や賛辞の声をいただき、やって良かったと感じています。(南知之)

**質疑・応答** ライブでの質疑・応答は、参加申込時に記入いただいたものと、委員からの質問を含め、事前に八木夫妻に確認と回答をいただきました。質問が多かった「私の家」の住人の変遷と増改築などのメンテナンスについては、「私の家年表」を作成し事前配布することで、分かりやすくしました。当日の配信では、コロナウイルス対策のためフェイスシールドを付けてのやりとりとなりましたが、声がこもりがちなので、ピンマイクは必須だと思います。(大川直治)

**まとめ** 八木ゆりさんからは「(今までの日曜美術館テレビなどにも比べ)見ていただきたいところを全部紹介いただけました」。八木幸二さんからは「(今まで)多くの方にご越しいただいたが、時に説明している声が届いていないか不安でありましたが、今回のようにきちんと皆に話を伝えることができることが分かり、オンラインならではのメリットを感じました」とのお言葉をいただき、「小住宅こそ、オンラインの見学会」だと思いました。

なにより今回の配信では図面にもテレビにも発表していない「地下」の撮影をさせていただき、「コンテナ撤去の動画」も紹介しました。この2点は初お披露目でした。また、本部のYouTubeチャンネルから動画配信を行ったことで、全国の方が見てくださり、11月末時点で1,800回の視聴をいただいております。(中村雅子)

※開催概要と執筆協力者は前号に掲載しました。